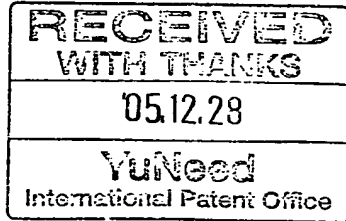


特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)



代理人
庄司 隆

様

あて名
〒101-0032
日本国東京都千代田区岩本町3丁目2番10号
SN岩本町ビル6階

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章) の
送付の通知書

(法施行規則第57条)
[PCT規則71.1]

発送日
(日.月.年) 27. 12. 2005

出願人又は代理人
の書類記号 GP04-1022PCT

重要な通知

国際出願番号
PCT/JP2004/017586

国際出願日
(日.月.年) 26. 11. 2004

優先日
(日.月.年) 26. 11. 2003

出願人 (氏名又は名称)
第一製薬株式会社

1. 国際予備審査機関は、この国際出願に関して特許性に関する国際予備報告及び付属書類が作成されている場合には、それらをこの送付書とともに送付することを、出願人に通知する。
2. 国際予備報告及び付属書類が作成されている場合には、すべての選択官庁に通知するために、それらの写しを国際事務局に送付する。
3. 選択官庁から要求があったときは、国際事務局は国際予備報告 (付属書類を除く) の英語の翻訳文を作成し、それをその選択官庁に送付する。

4. 注 意

出願人は、各選択官庁に対し優先日から30月以内に (官庁によってはもっと遅く) 所定の手続 (翻訳文の提出及び国内手数料の支払い) をしなければならない (PCT39条(1)) (様式PCT/IB/301とともに国際事務局から送付された注を参照)。

国際出願の翻訳文が選択官庁に提出された場合には、その翻訳文は、特許性に関する国際予備報告の付属書類の翻訳文を含まなければならない。この翻訳文を作成し、関係する選択官庁に直接送付するのは出願人の責任である。

選択官庁が適用する期間及び要件の詳細については、PCT出願人の手引き第II巻を参照すること。

出願人はPCT第33条(5)に注意する。すなわち、PCT第33条(2)から(4)までに規定する新規性、進歩性及び産業上利用可能性の基準は国際予備審査にのみ用いるものであり、締約国は、請求の範囲に記載されている発明が自国において特許を受けることができる発明であるかどうかを決定するに当たっては、追加の又は異なる基準を適用することができる (PCT第27条(5)も併せて参照)。そのような追加の基準は、例えば、実施可能要件や特許請求の範囲の明確性又は裏付け要件を、特許要件から免除することも含む。

名称及びあて名
日本国特許庁 (IPEA/J P)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

権限のある職員

特 許 庁 長 官

電話番号 03-3581-1101 内線 3452

4 C 2938

様式PCT/IPEA/416 (2004年1月)

添付用紙の注意書きを参照

注 意

1. 文献の写しの請求について

国際予備審査報告に記載された文献であって国際調査報告に記載されていない文献の複写

特許庁にこれらの引用文献の写しを請求することもできますが、独立行政法人工業所有権情報・研修館（特許庁庁舎 2 階）で公報類の閲覧・複写および公報以外の文献複写等の取り扱いをしています。

〔担当及び照会先〕

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3 丁目 4 番 3 号（特許庁庁舎 2 階）

独立行政法人工業所有権情報・研修館

【公報類】 閲覧部 TEL 03-3581-1101 内線3811～2

【公報以外】 資料部 TEL 03-3581-1101 内線3831～3

また、（財）日本特許情報機構でも取り扱いをしています。

これらの引用文献の複写を請求する場合は下記の点に注意してください。

〔申込方法〕

（1）特許（実用新案・意匠）公報については、下記の点を明記してください。

○特許・実用新案及び意匠の種類

○出願公告又は出願公開の年次及び番号（又は特許番号、登録番号）

○必要部数

（2）公報以外の文献の場合は、下記の点に注意してください。

○国際予備審査報告の写しを添付してください（返却します）。

〔申込み及び照会先〕

〒135-0016 東京都江東区東陽 4-1-7 佐藤ビル

財団法人 日本特許情報機構 情報処理部業務課

TEL 03-3508-2313

注) 特許庁に対して文献の写しの請求をすることができる期間は、国際出願日から7年です。

2. 各選択官庁に対し、国際出願の写し（既に国際事務局から送達されている場合は除く）及びその所定の翻訳文を提出し、国内手数料を支払うことが必要となります。

その期限については各国ごとに異なりますので注意してください。（条約第22条、第39条及び第64条(2)(a)(i)参照）

カスパーゼ1 (caspase-1) の生成阻害剤。

- [7] 以下の群より選ばれる阻害剤；
- (i) NOD2とプロカスパーゼ1 (procaspase-1) の結合を阻害する化合物を少なくとも1つ含有するプロカスパーゼ1の多量体化阻害剤、
 - (ii) NOD2とプロカスパーゼ1 (procaspase-1) の結合を阻害する化合物を少なくとも1つ含有するプロカスパーゼ1の活性化阻害剤、
- および
- (iii) NOD2とプロカスパーゼ1 (procaspase-1) の結合を阻害する化合物を少なくとも1つ含有するカスパーゼ1 (caspase-1) の生成阻害剤。
- [8] NOD2とプロカスパーゼ1 (procaspase-1) の結合を阻害することを特徴とする炎症性疾患の防止剤および／または治療剤。
- [9] NOD2とプロカスパーゼ1 (procaspase-1) の結合を阻害する化合物を少なくとも1つ含有する炎症性疾患の防止剤および／または治療剤。
- [10] 請求項6または7に記載の阻害剤を含有する炎症性疾患の防止剤および／または治療剤。
- [11] 炎症性疾患が、敗血症、炎症性腸疾患、クローン病またはリウマチである請求項8から10のいずれか1項に記載の防止剤および／または治療剤。
- [12] NOD2とプロカスパーゼ1 (procaspase-1) の結合阻害によるプロカスパーゼ1の多量体化阻害を特徴とする、炎症性疾患の防止剤および／または治療剤。
- [13] 炎症性疾患が、敗血症、炎症性腸疾患、クローン病またはリウマチである請求項12に記載の防止剤および／または治療剤。
- [14] 請求項5に記載の同定方法に用いることを特徴とする試薬キットであって、NOD2、NOD2をコードするポリヌクレオチド、該ポリヌクレオチドを含有するベクターおよび該ベクターを含有する形質転換体のうちの少なくともいずれか1つと、プロカスパーゼ1 (procaspase-1)、プロカスパーゼ1をコードするポリヌクレオチド、該ポリヌクレオチドを含有するベクターおよび該ベクターを含有する形質転換体のうちの少なくともいずれか1つとを含んでなる試薬キット。
- [15] (追加)

NOD2 と配列表の配列番号 4 に記載のアミノ酸配列で表される蛋白質のアミノ酸配列第 285 番目がアラニンに置換されているプロカスパーゼ 1 (procaspase-1) 変異体の結合を阻害する化合物の同定方法であって、NOD2 と該変異体の結合を可能にする条件下、NOD2 および／または該変異体を化合物と接触させ、NOD2 と該変異体の結合を検出することができるシグナルおよび／またはマーカーを使用する系を用いて、該シグナルおよび／またはマーカーの存在若しくは不存在および／または変化を検出することにより、NOD2 と該変異体の結合を阻害するか否かを決定する方法。